

科目名称：	子どもの保健	
担当者名：	奥村 澄	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>子どもの身体的生理的特徴・心の健康・疾病について基本的事項を中心に理解を深め、保育の対象の理解に役立てる。子どもの健康を守り育てるための必要な実践的理論・知識を習得する。</p> <p>子どもを取り巻く環境の変化を踏まえながら子どもの身体的・生理的発育・発達を把握し、疾病・事故の予防に必要な基礎的知識や課題を理解する。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種との連携・協働の下での適切な対応について理解する。 		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)	90		10		100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》看護師	《経験年数1》5年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
心身の健康増進を図る保健活動の意義の理解	心身の健康増進を図る保健活動の意義を解釈できる。	自ら、心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。	助言を受けながら、心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。	指導を受けながら、心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。
身体的な発育・発達と保健の理解	身体的な発育・発達と保健について解釈できる。	自ら、身体的な発育・発達と保健について説明できる。	助言を受けながら、身体的な発育・発達と保健について説明できる。	指導を受けながら、身体的な発育・発達と保健について説明できる。
心身の健康状態とその把握方法の理解	心身の健康状態とその把握方法について解釈できる。	自ら、心身の健康状態とその把握方法について説明できる。	助言を受けながら、心身の健康状態とその把握方法について説明できる。	指導を受けながら、心身の健康状態とその把握方法について説明できる。
疾病とその予防法及び多職種との連携・協働での適切な対応の理解	疾病とその予防法及び適切な対応について解釈できる。	自ら、疾病とその予防法及び適切な対応について説明できる。	助言を受けながら、疾病とその予防法及び適切な対応について説明できる。	指導を受けながら、疾病とその予防法及び適切な対応について説明できる。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 第1章 子どもの心身の健康と保健の意義 1. 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	子どもの健康問題、生命の誕生を調べておく。	60分
第2回 第1章 子どもの心身の健康と保健の意義 2. 健康の概念と健康指標 3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	子どもの出生・死亡統計をまとめる。	60分
第3回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 1. 身体的発育および運動機能の発達と保健	発育発達のためやすを課題プリントに整理する。	60分
第4回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 1. 身体的発育および運動機能の発達と保健	発育発達のためやすを課題プリントに整理する。	60分
第5回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 2. 生理機能の発達と保健	生理機能発達のためやすを課題プリントに整理する。	60分
第6回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 2. 生理機能の発達と保健	生理機能発達のためやすを課題プリントに整理する。	60分
第7回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 3. 発達に即応した基本的な生活習慣の形成	基本的な生活習慣の形成のためやすを課題プリントに整理する。	60分
第8回 第3章 子どもの心身の健康状態とその把握 1. 健康状態の観察 2. 心身の不調等の早期発見	子どもの症状の特徴をまとめる。	60分
第9回 第3章 子どもの心身の健康状態とその把握 3. 発育・発達の把握と健康診断 4. 保護者との情報共有 グループワーク「ママへの回答」	グループワーク課題の準備をしておく。	60分
第10回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 1. 子どもの疾病の特徴 2. 保育の現場でよくある疾患 感染症	子どもの感染症の特徴をまとめる。感染症を調べ課題プリントにまとめる。	60分
第11回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 2. 保育の現場でよくある疾患 先天異常 アレルギー疾患	子どもの先天異常、アレルギー疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第12回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 2. 保育の現場でよくある疾患 消化器・呼吸器・循環器疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第13回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 2. 保育の現場でよくある疾患 血液疾患・悪性新生物・神経系疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第14回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 2. 保育の現場でよくある疾患 腎・泌尿器・生殖器疾患・皮膚疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分
第15回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 2. 保育の現場でよくある疾患 目・耳・整形外科疾患・内分泌・代謝疾患・SIDS	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、課題プリント、自己ノートをまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、90%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
課題提出10%
受講態度(授業への参加度)も考慮する。

課題に対するフィードバック

1. 授業内プリントは評価し返却する。
2. 定期試験は、希望者には事務局を通して返却する。

教科書・参考書

子どもの保健 中根淳子・佐藤直子編著 ななみ書房
参考資料：「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省 2019改訂版)
「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省 2018年度改訂版)
「教育・保健施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)